

- 施設地域別、施設設置主体別)に患者状態、各種臨床情報、各種診療行為を可視化する。
- ② その上で、モデル4施設間において同様に可視化し、それら施設間または全国のMDC3の中での立ち位置を可視化する。

B. 研究方法

対象

『診断群分類を活用した医療サービスのコスト推計に関する調査研究班（主任研究者：松田晋哉 産業医科大学教授）』に、平成18年度7月から12月までの退院患者に係る調査データの提出に同意をいただいた医療機関のデータ提出していただいた469施設（特定機能病院69施設487,662件、民間病院400施設1,402,190件、特定機能病院分院1施設5,397件）の合計1,895,249件の患者情報（臨床情報、診療報酬点数関連情報）で、E,Fファイルが6カ月揃っている施設の患者、469施設（特定機能病院69施設447,900件、民間病院400施設1,274,141件、特定機能病院分院1施設5,190件）の合計1,727,231件の患者情報（臨床情報、診療報酬点数関連情報）を対象とした。

ここで分析に利用する傷病情報を以下のように整理した。

傷病情報

- ① MDC03

患者に付与される診断群分類コード14ケタのはじめの2桁がMDCを意味するので、これが03に該当する患者を抽出した。
- ② 傷病情報としての基本DPC(DPC6)
- ③ 性別
- ④ 紹介の有無
- ⑤ 救急車搬送の有無
- ⑥ 退院時転帰

生存または死亡
- ⑦ 年齢、年齢区分

15歳未満、15歳以上65歳未満、65歳以上
- ⑧ 副傷病情報

(ア) 様式1情報の併存症4スロットにあるものから、Chalson Comorbidity Index(CCI)を計算した
(イ) それを0点、1点、2点、3点、4点以上とカテゴリー化した
- ⑨ 様式1情報の併発症4スロットから、以下を収集した

(ア) 手術処置関連併発続発症ⁱⁱの有無
(イ) 静脈血栓症肺梗塞症ⁱⁱⁱの有無
- ⑩ 各種医療行為の有無または日数情報を分析した^{iv}

(ア) 中心静脈
(イ) リハビリ
(ウ) 人工呼吸
(エ) 化学療法
(オ) 放射線療法
- ⑪ 癌ステージ分類

(ア) Stage0,1,2,3,4
(イ) Stage0&1, Stage2&3, Stage4
- ⑫ 癌患者 Performance status

0,1,2,3,4
- ⑬ 医療費関連指標として

(ア) 在院日数
(イ) 診療報酬上の総点数
(ウ) 包括範囲総点数^v
(エ) 包括範囲一日点数
包括範囲総点数÷在院日数除
- ⑭ 外科手術情報として、手術領域が耳鼻咽喉科系、頸部手術のものとし、以下の手術分野についてE,Fファイルから、該当するレセプト電算コードを収集した
顔面、顔面骨・顎関節、口腔前庭・口底・

頬粘膜・舌・口峽、歯・歯肉・歯槽突起・口蓋、唾液腺・その導管、外耳、中耳、内耳、鼻、副鼻腔、喉頭・気管、甲状腺・上皮小体、その他・頸部

- ⑮ 手術難易度として外保連試案の定義から、
⑭の手術分野のコードに付与されている手術難易度を収集した。

B-1、B-2、B-3、C-1、C-2、C-3、D-1、D-2、
D-3、E-1、E-2

- ⑯ 平成18年度4月版医科点数表の手引きにある手術点数表名称

- ⑰ 耳鼻咽喉科系の悪性腫瘍診断群分類(03001×；頭頸部悪性腫瘍)を更に抽出し、以下を分析した。

(ア) 癌ステージ分類
(イ) 癌患者 Performance status
(ウ) 化学療法の有無と日数
(エ) 放射線療法の有無と日数

- ⑱ 施設特性

DPC 参加年度別病院：

15年支払参加病院
16年支払参加病院
18年支払参加病院
18年調査参加病院

施設設置主体^{vi}：

国立、公立、民間、公益民間

施設地域：

北海道、東北、関東、東京、中部、近畿、
中国、四国、九州、沖縄

モデル4施設：

施設A、施設B、施設C、施設D

解析方法：

- ① 分析は施設特性(DPC参加年度別病院、施設設置主体、施設地域)毎に記述し、②か

ら⑮の収集情報別に度数または割合を棒グラフで表現し、ばらつきはFisher exact 検定を行った。有意確率は0.05とした。

- ② 医療費関連指標は箱ひげ図で前述施設特性別に可視化
③ 手術点数表名称はモデル4施設別に集計図表化した
④ 統計パッケージはSPSS for Win(Ver16.0)、図表はExcel2007 pivot table/graphを利用した。

C. 結果

MDC03の基本DPC6数は35種類で、466施設からの患者件数は82,894件であった。施設特性別にみると、15年支払参加病院71施設25466件(31%)、16年支払参加病院55施設8851件(11%)、18年支払参加病院171施設28390件(34%)、18年調査参加病院161施設20187件(24%)であった。

設置主体別では国立51施設12930件(16%)、公立80施設13806件(17%)、民間204施設34654件(42%)、公益民間123施設21504件(26%)であった。

施設地域別では北海道25施設4032件(5%)、東北29施設5729件(7%)、関東78施設15654件(19%)、東京32施設8156件(10%)、中部64施設12764件(15%)、近畿98施設15145件(18%)、中国30施設6932件(8%)、四国13施設2189件(3%)、九州81施設10898件(13%)、沖縄8施設1395件(2%)であった。

全MDC03

患者情報、診療情報は全体をとしてみると、性別では男性が49677件(60%)、紹介では有が34107件(41%)、救急車搬送では有が5733件(7%)、退院時転帰では死亡が544件(1%)、年齢区分で

は年齢区分では15歳以上65歳未満が46474件(56%)、DPC6では03001xが10718件(13%)、CCIでは1点が7178件(9%)、全手術処置続発症では有が1280件(2%)、静脈血栓肺塞栓では有が21件(0%)、中心静脈では有が1505件(2%)、リハビリ療法では有が1832件(2%)であった。

DPC参加年度別施設別では、15年支払参加病院、16年支払参加病院、18年支払参加病院、18年調査参加病院別の順にみると、性別では男性が16452件(64.6%)、5219件(59%)、16346件(57.6%)、11660件(57.8%)であった。紹介では有が11984件(47.1%)、3501件(39.6%)、11422件(40.2%)、7200件(35.7%)で、救急車搬送では有が705件(2.8%)、694件(7.8%)、2296件(8.1%)、2038件(10.1%)、退院時転帰では死亡が241件(0.9%)、54件(0.6%)、133件(0.5%)、116件(0.6%)であった。平均年齢は48.8歳、43.4歳、44.4歳、43.9歳、年齢区分では年齢区分では、15歳以上65歳未満が15455件(60.7%)、4661件(52.7%)、16074件(56.6%)、10284件(50.9%)であった。

DPC6別では03001xが10718件(12.9%)であった。CCIでは、1点が2501件(9.8%)、775件(8.8%)、2798件(9.9%)、1104件(5.5%)であった。全手術処置続発症では、有が831件(3.3%)、101件(1.1%)、312件(1.1%)、36件(0.2%)であった。静脈血栓肺塞栓では、有が10件(0%)、1件(0%)、10件(0%)、0件(0%)であった。診療行為では中心静脈では、有が1016件(4%)、80件(0.9%)、243件(0.9%)、166件(0.8%)であった。リハビリ療法では、有が730件(2.9%)、202件(2.3%)、456件(1.6%)、444件(2.2%)であった。

医療費関連指標では、在院日数平均が15.8日、8.9日、9.1日、8.9日、総点数平均が64566.5点、34039.3点、34427.9点、32957.5点、包括

範囲総点数平均が40592点、22944.1点、23352点、23387.1点、包括範囲一日点数が2877.1点、2900.4点、2842.6点、2977.5点であった。

処置日数では、中心静脈平均が19.3日、22.5日、23.4日、23.6日、人工呼吸平均が3.4日、2.2日、3.8日、7.9日、リハビリ平均が11.5日、11.0日、8.9日、7.1日であった。

施設設置主体別では、国立、公立、民間、公益民間の順に、性別では、男性が8013件(62%)、7989件(57.9%)、21215件(61.2%)、12460件(57.9%)であった。紹介では、有が6746件(52.2%)、6158件(44.6%)、12720件(36.7%)、8483件(39.4%)であった。救急車搬送では、有が523件(4%)、993件(7.2%)、2744件(7.9%)、1473件(6.8%)であった。退院時転帰では、死亡が126件(1%)、93件(0.7%)、208件(0.6%)、117件(0.5%)であった。平均年齢は48.9歳、43.6歳、46.4歳、43.4歳、年齢区分では、年齢区分では、15歳以上65歳未満が7212件(55.8%)、7094件(51.4%)、20532件(59.2%)、11636件(54.1%)であった。DPC6別では03001xが10718件(12.9%)で、国立、公立、民間、公益民間別に3303件(30.8%)、1903件(17.8%)、3720件(34.7%)、1792件(16.7%)であった。

DPC6別では03001xが10718件(12.9%)で、国立、公立、民間、公益民間別に3303件(30.8%)、1903件(17.8%)、3720件(34.7%)、1792件(16.7%)であった。CCIでは、1点が1204件(9.3%)、978件(7.1%)、3185件(9.2%)、1811件(8.4%)であった。全手術処置続発症では、有が340件(2.6%)、100件(0.7%)、594件(1.7%)、246件(1.1%)であった。静脈血栓肺塞栓では、有が6件(0%)、0件(0%)、14件(0%)、1件(0%)であった。中心静脈では、有が504件(3.9%)、283件(2%)、526件(1.5%)、192件(0.9%)であった。リハビリ療

法では、有が472件(3.7%)、235件(1.7%)、712件(2.1%)、413件(1.9%)であった。

医療費関連指標では、在院日数平均が17.9日、11.7日、9.6日、9日、総点数平均が70553.9点、42658.3点、38729.3点、34641.2点、包括範囲総点数平均が43669.9点、29100.4点、25816.3点、23754.6点、包括範囲一日点数が2686.1点、2735.2点、3027.6点、2898.8点であった。

処置日数では、中心静脈平均が22.8日、21.4日、17.6日、22.1日、人工呼吸平均が3.3日、3.8日、3.7日、5.4日、リハビリ平均が11.0日、6.6日、11.0日、7.9日であった。

施設地域別では東京、近畿の順に、施設地域別にみると、男性が夫々5214件(63.9%)、9131件(60.3%)、紹介有が夫々2984件(36.6%)、6300件(41.6%)、救急車搬送有が夫々454件(5.6%)、1259件(8.3%)、退院時転帰死亡が夫々74件(0.9%)、94件(0.6%)、平均年齢は47.5歳、45.9歳、年齢区分15歳以上65歳未満が夫々5306件(65.1%)、8382件(55.3%)であった。CCI点が夫々813件(10%)、1179件(7.8%)、全手術処置続発症有が夫々235件(2.9%)、324件(2.1%)、静脈血栓肺塞栓有が夫々1件(0%)、3件(0%)、中心静脈有が夫々190件(2.3%)、312件(2.1%)、リハビリ療法有が夫々140件(1.7%)、331件(2.2%)であった。

医療費関連指標では東京、近畿の順に、在院日数平均が11.1日、11.7日、総点数平均が50355.3点、45950.6点、包括範囲総点数平均が30991.4点、29658.5点、包括範囲一日点数が3037.7点、2829.8点であった。

処置日数では東京、近畿の順に、中心静脈平均が16.2日、18.5日、人工呼吸平均が3.6日、3.5日、リハビリ平均が10.2日、14.4日であ

た。

診断群分類 03001×(頭頸部悪性腫瘍)

診断群分類 03001×(頭頸部悪性腫瘍) 10718件だけを選択し、同様に施設特性の観点でみると、15年、16年、18年支払参加病院、18年調査参加病院の順に5929件(55%)、885件(8%)、2366件(22%)、1538件(14%)であった。

男性が4557件(76.9%)、638件(72.1%)、1732件(73.2%)、1103件(71.7%)であった。紹介では、有が2984件(50.3%)、395件(44.6%)、1030件(43.5%)、735件(47.8%)であった。救急車搬送では、有が97件(1.6%)、15件(1.7%)、48件(2%)、45件(2.9%)であった。退院時転帰では、死亡が236件(4%)、54件(6.1%)、125件(5.3%)、112件(7.3%)であった。平均年齢は64.5歳、68.0歳、66.4歳、67.4歳、年齢区分では、年齢区分では、15歳以上65歳未満が2785件(47%)、334件(37.7%)、1015件(42.9%)、579件(37.6%)であった。CCIでは、1点が702件(11.8%)、99件(11.2%)、228件(9.6%)、102件(6.6%)であった。

全手術処置続発症では、有が257件(4.3%)、20件(2.3%)、64件(2.7%)、15件(1%)であった。静脈血栓肺塞栓では、有が9件(0.2%)、1件(0.1%)、0件(0%)、0件(0%)であった。EFファイル化学療法では、有が2234件(37.7%)、294件(33.2%)、792件(33.5%)、550件(35.8%)であった。放射線治療では、有が1837件(31%)、254件(28.7%)、574件(24.3%)、366件(23.8%)であった。がんステージ分類では、がんステージ分類では、Stage0が36件(0.6%)、10件(1.1%)、48件(2%)、10件(0.7%)であった。がんステージ再分類では、Stage 0 or 1が433件(7.3%)、111件(12.5%)、287件(12.1%)、172件(11.2%)であった。がんパフォーマンス分類では、0が1581

件(26.7%)、326件(36.8%)、720件(30.4%)、427件(27.8%)であった。

医療費関連指標では、在院日数平均が38.6日、27日、27.8日、31.4日、総点数平均が133585.2点、90680点、90913.1点、99824.5点、包括範囲総点数平均が96659.6点、63308.6点、66170.6点、74558.1点、包括範囲一日点数が2704.8点、2539.8点、2575.8点、2605.5点であった。

処置日数では、中心静脈平均が19.7日、23.4日、23.6日、24.6日、リハビリ平均が16.7日、15.5日、18.1日、12.0日、化学療法平均が10.1日、9.9日、8.6日、8.9日、人工呼吸平均が3.1日、2.6日、2.8日、9.4日、放射線療法平均が32.3日、27.3日、29.5日、33.5日、であった。

施設設置主体別では、国立、公立、民間、公益民間の順に、国立、公立、民間、公益民間別に3303件(30.8%)、1903件(17.8%)、3720件(34.7%)、1792件(16.7%)であった。

性別では、男性が2483件(75.2%)、1385件(72.8%)、2816件(75.7%)、1346件(75.1%)であった。紹介では、有が1773件(53.7%)、911件(47.9%)、1733件(46.6%)、727件(40.6%)であった。救急車搬送では、有が55件(1.7%)、35件(1.8%)、85件(2.3%)、30件(1.7%)であった。退院時転帰では、死亡が124件(3.8%)、90件(4.7%)、203件(5.5%)、110件(6.1%)であった。平均年齢は65.1歳、66.4歳、64.9歳、67.2歳、年齢区分では、15歳以上65歳未満が1486件(45%)、791件(41.6%)、1721件(46.3%)、715件(39.9%)であった。CCIでは、1点が398件(12%)、145件(7.6%)、416件(11.2%)、172件(9.6%)であった。全手術処置続発症では、有が140件(4.2%)、31件(1.6%)、141件(3.8%)、44件(2.5%)であった。静脈血栓肺塞栓では、有が6件(0.2%)、0

件(0%)、4件(0.1%)、0件(0%)であった。EFファイル化学療法では、有が1264件(38.3%)、713件(37.5%)、1304件(35.1%)、589件(32.9%)であった。放射線治療では、有が1101件(33.3%)、564件(29.6%)、988件(26.6%)、378件(21.1%)であった。がんステージ分類では、Stage0が21件(0.6%)、15件(0.8%)、29件(0.8%)、39件(2.2%)であった。がんステージ再分類では、Stage0 or 1が296件(9%)、219件(11.5%)、283件(7.6%)、205件(11.4%)であった。がんパフォーマンス分類では、0が1141件(34.5%)、529件(27.8%)、856件(23%)、528件(29.5%)であった。医療費関連指標では、在院日数平均が41.4日、35.1日、30.9日、26.9日、総点数平均が139323.9点、113733.7点、108731.7点、89176.8点、包括範囲総点数平均が99804.3点、84518.6点、78538.4点、65679.7点、包括範囲一日点数が2572.8点、2570.5点、2749.8点、2660.3点であった。

処置日数では、中心静脈平均が23.1日、22.3日、17.8日、22.3日、リハビリ平均が16.5日、9.2日、18.0日、16.7日、化学療法平均が10.1日、10.1日、9.5日、7.9日、人工呼吸平均が3.1日、3.3日、3.0日、7.3日、放射線療法平均が33.4日、31.1日、30.3日、29.7日であった。

施設地域別では東京、近畿の順に、男性が夫々930件(77.3%)、1662件(75.2%)、紹介有が夫々500件(41.6%)、1074件(48.6%)、救急車搬送有が夫々29件(2.4%)、45件(2%)、退院時転帰死亡が夫々71件(5.9%)、90件(4.1%)、平均年齢は63.9歳、64.7歳、年齢区分15歳以上65歳未満が夫々598件(49.7%)、1052件(47.6%)、CCIでは、1点が夫々132件(11%)、225件(10.2%)であった。全手術処置続発症有が夫々34件

(2.8%)、129件(5.8%)、静脈血栓肺塞栓有が夫々1件(0.1%)、1件(0%)、EFファイル化学療法有が夫々339件(28.2%)、759件(34.3%)、放射線治療有が夫々304件(25.3%)、568件(25.7%)、がんステージ分類 Stage0 が夫々13件(1.1%)、12件(0.5%)、がんステージ再分類 Stage 0 or 1 が夫々87件(7.2%)、153件(6.9%)、がんパフォーマンス分類 0 が夫々292件(24.3%)、556件(25.1%)であった。

医療費関連指標では東京、近畿の順に、在院日数平均が30.8日、35.4日、総点数平均が116813.5点、119683.6点、包括範囲総点数平均が83135.3点、85943.8点、包括範囲一日点数が2875.2点、2585.7点であった。

処置日数では東京、近畿の順に、中心静脈平均が16.5日、18.6日、リハビリ平均が16.5日、23.0日、化学療法平均が8.3日、9.6日、人工呼吸平均が2.4日、3.7日、放射線療法平均が28.2日、31.1日であった。

モデル4 施設間での全 MDC03 分析

モデル4 施設間の全患者数は1841件で、施設A、施設B、施設C、施設Dの順に、410件(22%)、938件(51%)、372件(20%)、121件(7%)であった。

性別では、男性が257件(62.7%)、681件(72.6%)、237件(63.7%)、61件(50.4%)であった。紹介では、有が69件(16.8%)、508件(54.2%)、172件(46.2%)、24件(19.8%)であった。救急車搬送では、有が6件(1.5%)、32件(3.4%)、12件(3.2%)、10件(8.3%)であった。退院時転帰では、死亡が5件(1.2%)、14件(1.5%)、3件(0.8%)、2件(1.7%)であった。平均年齢は47.3歳、47.7歳、47.5歳、49.1歳、年齢区分では、15歳以上65歳未満が266件(64.9%)、715件(76.2%)、217件(58.3%)、65件(53.7%)であった。CCIで

は、1点が48件(11.7%)、110件(11.7%)、37件(9.9%)、23件(19%)であった。

全手術処置続発症では、有が3件(0.7%)、5件(0.5%)、4件(1.1%)、0件(0%)であった。静脈血栓肺塞栓では、有が0件(0%)、0件(0%)、1件(0.3%)、0件(0%)であった。中心静脈では、有が13件(3.2%)、39件(4.2%)、14件(3.8%)、4件(3.3%)であった。リハビリ療法では、有が2件(0.5%)、9件(1%)、11件(3%)、1件(0.8%)であった。

医療費関連指標では施設A、施設B、施設C、施設Dの順に、在院日数平均が10.8日、11.2日、15.1日、22.6日、総点数平均が54320.7点、58634.5点、62267.8点、78126.7点、包括範囲総点数平均が31393.9点、34784.4点、42068.9点、54044.1点、包括範囲一日点数が3111.6点、3274.9点、3025.5点、2667.9点、であった。

処置日数では施設A、施設B、施設C、施設Dの順に、中心静脈平均が5.5日、7.9日、8.4日、21.5日、人工呼吸平均が施設Bで3.1日、施設Cが6例1日、他施設は1例であった。リハビリ平均が2.5日、14.1日、17.3日、施設Dは1例であった。

モデル4 施設間での診断群分類 03001×(頭頸部悪性腫瘍)

モデル4 施設間の全患者数は367件で、施設A、施設B、施設C、施設Dの順に、55件(15%)、178件(49%)、108件(29%)、26件(7%)であった。

性別では、男性が44件(80%)、147件(82.6%)、82件(75.9%)、16件(61.5%)であった。紹介では、有が3件(5.5%)、96件(53.9%)、51件(47.2%)、6件(23.1%)であった。救急車搬送では、有が1

件(1.8%)、5件(2.8%)、0件(0%)、0件(0%)であった。退院時転帰では、死亡が5件(9.1%)、14件(7.9%)、3件(2.8%)、2件(7.7%)であった。平均年齢は62.7歳、60.9歳、63.0歳、67.0歳、年齢区分では、年齢区分では、15歳以上65歳未満が31件(56.4%)、116件(65.2%)、56件(51.9%)、9件(34.6%)であった。CCIでは、1点が8件(14.5%)、25件(14%)、5件(4.6%)、4件(15.4%)であった。全手術処置続発症では、有が3件(5.5%)、2件(1.1%)、3件(2.8%)、0件(0%)であった。

静脈血栓肺塞栓では、有が0件(0%)、0件(0%)、1件(0.9%)、0件(0%)であった。化学療法では、有が15件(27.3%)、63件(35.4%)、36件(33.3%)、21件(80.8%)であった。EFファイル化学療法では、有が15件(27.3%)、62件(34.8%)、47件(43.5%)、21件(80.8%)であった。放射線療法では、有が15件(27.3%)、25件(14%)、22件(20.4%)、9件(34.6%)であった。放射線治療では、有が15件(27.3%)、29件(16.3%)、22件(20.4%)、9件(34.6%)であった。がんステージ分類では、Stage0が0件(0%)、10件(5.6%)、0件(0%)、0件(0%)であった。がんステージ再分類では、Stage 0 or 1が1件(1.8%)、34件(19.1%)、3件(2.8%)、3件(11.5%)であった。がんパフォーマンス分類では、0が2件(3.6%)、140件(78.7%)、12件(11.1%)、9件(34.6%)であった。

医療費関連指標では施設A、施設B、施設C、施設Dの順に、在院日数平均が29.6日、28.4日、31.9日、61.6日、総点数平均が124811.2点、119386.1点、115760.2点、169715.8点、包括範囲総点数平均が79938.2点、87142.1点、85641.2点、139013.5点、包括範囲一日点数が2761.5点、3174.4点、2915.8点、2373.2点であった。

処置日数では施設A、施設B、施設C、施設D

の順に、中心静脈平均が5.5日、7.7日、8.9日、21.5日、リハビリ平均が施設B、施設Cで13.6日、18.9日、施設Aは1例、施設Dは0例であった。化学療法平均が8.3日、6.3日、12.3日、20.6日、人工呼吸平均は施設Bが2.6日、施設Cが1日、他施設は1例であった。放射線療法平均が25.1日、26.5日、32.3日、35.0日、であった。

耳鼻咽喉科領域の手術件数

全出現件数は74890件で、DPC参加年度別病院別では、15年支払参加病院27882件(1.09件/人)、16年支払参加病院7622件(0.86件/人)、18年支払参加病院24358件(0.86件/人)、18年調査参加病院15028件(0.75件/人)であった。

施設設置主体で見ると、国立12300件(0.95件/人)、公立12813件(0.93件/人)、民間31930件(0.92件/人)、公益民間17847件(0.83件/人)であった。

施設地域別では、北海道4045件(1.01件/人)、東北5287件(0.92件/人)、関東14190件(0.91件/人)、東京9853件(1.21件/人)、中部10699件(0.84件/人)、近畿12691件(0.84件/人)、中国5971件(0.86件/人)、四国1899件(0.87件/人)、九州8969件(0.83件/人)、沖縄1286件(0.92件/人)であった。

モデル4施設間の全患者数は2643件で、施設A、施設B、施設C、施設Dの順に、686件(1.67件/人)、1489件(1.59件/人)、356件(0.96件/人)、112件(0.93件/人)であった。457施設では最小0.01件/人から10.89件/人、症例数の重み付けのない平均値は0.82件/人であった。

手術分野別にみると最多は副鼻腔領域手術で25186件(34%)であった。その領域について参加

年度別にみると、15年支払参加病院 7150 件 (26%)、16年支払参加病院 3076 件 (40%)、18年支払参加病院 9618 件 (39%)、18年調査参加病院 5342 件 (36%) であった。

施設設置主体別では国立 3112 件 (25%)、公立 4758 件 (37%)、民間 10180 件 (32%)、公益民間 7136 件 (40%) であった。

施設地域では北海道 1157 件 (29%)、東北 374 件 (29%)、関東 2020 件 (38%)、東京 5079 件 (36%)、中部 2680 件 (27%)、近畿 3948 件 (37%)、中国 4263 件 (34%)、四国 2054 件 (34%)、九州 599 件 (32%)、沖縄 3012 件 (34%) であった。

モデル4施設でみると施設A 165 件 (21%)、施設B 527 件 (66%)、施設C 75 件 (9%)、施設D 35 件 (4%) であった。

手術難易度別にみると最多は B-2 手術で 18036 件 (36%) であった。その領域について参加年度別にみると、15年支払参加病院は B-3 手術 5012 件 (18%)、16年支払参加病院 B-2 手術 2295 件 (30%)、18年支払参加病院 B-2 手術 6806 件 (28%)、18年調査参加病院 B-2 手術 4097 件 (27%) であった。

施設設置主体別でみると国立は B-3 手術で 2358 件 (19%)、公立は B-2 手術で 3372 件 (26%)、民間は B-2 手術で 7496 件 (23%)、公益民間は B-2 手術で 5163 件 (29%) であった。

施設地域でみると B-2 手術が最頻で、北海道 1134 件 (28%)、東北 287 件 (22%)、関東 1395 件 (26%)、東京 3539 件 (25%)、中部 1830 件 (19%)、近畿 2732 件 (26%)、中国 2847 件 (22%)、四国 1542 件 (26%)、九州 442 件 (23%)、沖縄 2288 件 (26%) であった。

モデル4施設でみると施設Aは B-3 手術で 159 件 (23%)、施設Bは B-2 手術で 251 件 (17%)、施設Cは B-3 手術で 60 件 (17%)、施設Dは B-3

手術で 23 件 (21%) であった。

D. 考察

本研究では、MDC03 を例として、各施設別ではなく施設特性 (DPC 参加年度別、施設設置主体別、施設地域別) に施設を集約し、患者像や臨床像、医療費関連指標、各診療行為をクロス集計し、それらを可視化・記述した。

それによると、各施設特性でばらつきが否定できなかったのは、基本 DPC6 が 03001×参加年度別静脈血栓肺梗塞割合、設置主体別性別・救急車搬送・静脈血栓肺梗塞割合、施設地域別救急車搬送割合であった。モデル4施設間では、MDC3 退院時転帰割合・手術処置続発症割合・静脈血栓肺塞栓症割合、03001×性別・救急車搬送・退院時転帰・CCI・手術処置続発症割合・静脈血栓肺塞栓症割合・放射線療法・放射線治療 (放射線療法または腔内照射または直線加速照射) であった。以上以外はばらつきが認められた。

本研究の目的は、まず耳鼻咽喉科領域の患者像、臨床像、医療費関連指標、各診療行為を可視化してから、いくつかのモデル施設の状況を分析し、モデル施設間比較と全国の施設との違いを可視化することである。その意義は、そもそも耳鼻咽喉科領域の臨床研究の端著とすることであり、更に医療経営管理への応用を目的としている。各種医療行為とそのパフォーマンス (医療費関連指標やアウトカムの関係) などの検証を、疾患固有のリスク調整を考慮しつつ行うことが、DPC を活用した臨床研究ともいえる。具体的には、悪性腫瘍疾患群では、医療投入量やその適正性などを、Stage 分類を考慮した切除手術選択や化学療法レジメンや使用パターンの分析を通して検証することなどが、挙げられよう。Stage 分類を始めとした各種臨床情報な

ど、リスク調整因子としてデータ整備を行うことが不可欠であることを、各専門家集団が各々の施設に対して働きかけていただく事が必要である。

以上のように施設はDPCとその関連データを活用して、マクロ的視点（全国とモデル施設の観点）、ミクロ的視点（患者状態像などリスク調整した診療行為分析など）に立った分析・検証・可視化に応用できるのである。それは同時に医療費関連指標も包含しているので、医療経営管理の視点も併せ持っていることは当然である。

いくつか本研究の解釈上で注意すべき点を挙げる。

1. DPC 関連データの精度や質の検証がどうか、という問題が残っている。実際、がん診療における重要なリスク調整因子である癌ステージ分類の記載にはばらつきがみられる。これは、診療行為が個々にミクロレベルで分析可能になった現在、その行為の適正性正当性を証明できるものは、それら情報であることを医師に教育し、診療情報管理士がその情報収集をサポートすべきである。
2. 本報告書は6カ月データであり、季節変動や年間という悉皆性に問題がある。これも様式1やEFファイルは年間継続的収集・作成は可能であり、医事課や診療情報管理士はその有用性を認識して、継続的に作成・分析するシステムを早急に立ち上げるべきである。同じ延長線上のこととして、保険専門医集団の『学会』が進んで『臨床研究への応用』や『政策科学への展開』『政策提言』の可能性を

を認識し、学会データベース構築を図るべきであるとも考える。

E. 結論

平成18年度7月から12月までの調査データからE,Fファイルが6カ月揃っているデータベースを作成して、MDC03(耳鼻咽喉科系疾患)の患者像、臨床情報や入力状況、医療費関連指標（在院日数、診療報酬総点数、包括範囲総点数、包括範囲一日点数）、各診療行為を分析・可視化した。その中で代表的な疾患（頭頸部悪性腫瘍診断群分類）やモデル4施設の分析も合わせておこなった。

施設特性やモデル4施設間でそれらはばらつていることが判明した。

DPC や関連データは臨床研究や医療経営管理への応用が可能であり、政策科学への展開、政策提言への可能性が示唆された。その実現のために各施設は継続的にデータを作成し、保険医療専門家集団はリスク調整臨床情報の作成の必要性を認識・指導し、両者がそれぞれの目的に沿ってDPCデータを系統的に収集・分析・可視化を行うことが必要である。それによって、『医療の質』の把握と改善が進められることになろう。

F. 研究発表

平成20年1月現在未発表

G. 知的所有権の取得状況

該当せず

H. 引用文献

なし

i MDC : Major Diagnostic Category

ii T80\$,T88\$

iii I26\$,I80\$

iv E,F ファイルからの、手術 (表 1)、化学療法 (表 2)、中心静脈、人工呼吸、リハビリ、放射線療法 (表 3) の抽出は本研究班で作成した定義テーブルに記載されている処置マスターのレセプト電算コードを活用して F ファイルから抽出し、コードどれかにヒットすれば有とした。

(注意:化学療法の有無情報はこれ以外に様式 1 にあるが、これは施設が作成した情報であり、必ずしも診療報酬明細情報と合致しているわけではない。) また E,F ファイル情報から実施日カウントして、処置日数とした。

手術処置では様式 1 情報は利用していない。手術は外語連試案第 6 版に準拠し、難易度の明示がないものでは、点数、手術内容が同等のもの難易度を付与した。

v入院基本料加算、特定入院料、検査総点数、画像総点数、投薬総点数、注射総点数、処置総点数の合計を包括範囲総点数としている (1000 点以上の処置料も含んでいる)

vi①国立は、ナショナルセンター、国、国立大学法人、国立病院機構、

②公立は公立大学法人、国民健康保険団体連合会、市町村、地方独立行政法人、都道府県立、

③民間は、その他の法人、医療生協、医療法人、会社、学校法人、個人、公益法人、社会福祉法人、④公益性民間は恩賜財団済生会、共済組合連合会、健康保険組合、厚生年金事業振興団、

厚生農業協同組合連合会、船員保険会、全国社会保険協会連合会、独立行政法人労働者健康福祉機構、日本赤十字社、北海道社会事業協会、郵政公社とした。

DPC ポートフォリオスイートによる診療実態の可視化とその改善

分担研究者 石川 ベンジャミン 光一

国立がんセンター がん対策情報センター 情報システム管理課 システム開発室長

研究要旨

包括払い方式が医療経済及び医療提供体制に及ぼす影響を評価する上では、診断群分類毎に医療管理学的特徴を可視化し、各年度における診療の実態とその変遷について分析を行う必要がある。本研究では、これまでに開発してきた DPC ポートフォリオスイートの手法を継続して適用することにより、①DPC 支払い分類ごとの診療区分別点数と入院日数との関係に着目した DPC ポートフォリオ、②DPC 6 桁分類ごとのがん化学療法薬剤の使用状況を集計した化学療法レジメンポートフォリオ、および③DPC 6 桁分類ごとに各医療機関の治療症例数、入院日数、主要な治療法の組み合わせなどを集計した病院診療ポートフォリオの 3 種の資料の更新版を作成した。また、新たな統計資料として、④化学療法の入院・外来比率と使用薬剤に関する医療機関別集計、⑤DPC 支払い分類ごとの ICU/HCU 利用率に関する集計と医療機関別特徴の分析、⑥医療機関別の診療パフォーマンス集計、についての検討を行った。

A. 研究目的

包括払い方式が医療経済及び医療提供体制に及ぼす影響を評価する上では、診断群分類毎に医療管理学的特徴を可視化し、各年度における診療の実態とその変遷について分析を行う必要がある。分担研究者らはこれまでに DPC ポートフォリオスイートを開発し、診断群分類の精緻化や支払い方法の改善に向けた基礎資料を整備してきた。

本研究では、これまでに開発・活用してきた 3 種類の資料、①DPC ポートフォリオ、②化学療法レジメンポートフォリオ、および③病院診療ポートフォリオを新しい DPC 調査データと DPC 分類を利用して更新すること目的としてデータの集計を行うとともに、各医療機関の機能を適切に反映した機能評価係数を開発するための新しい集計手法の開発を目的として研究を行った。

B. 研究方法

入院症例についてのデータは、平成 18 年 7 月 1 日から 12 月 31 日までの退院症例を対象と

した DPC 調査データを本研究班で再収集したものを利用した。外来診療についてのデータは、平成 18 年 9 月 1 日から 12 月 31 日までの 4 ヶ月間の診療を対象とした。データの収集に当たっては、DPC 調査で利用されているレセプトデータダウンロード方式による入院 E/F ファイルを踏襲した形式を利用し、細部の仕様を外来診療に適合させた「外来 E/F ファイル」を新たに設計して利用した（資料 1）。また、一部の集計については、平成 19 年度の入院・外来調査データにより予備集計も行っている。

収集した入院・外来データは、エラーチェック後に Microsoft SQL Server 2005 を利用したリレーショナルデータベース上に保管して分析を行った。グラフ等の集計資料の作成については、Stata/MP および SAS を利用した。

C. 研究結果

1. DPC ポートフォリオスイートの更新

1) DPC ポートフォリオ

平成 14 年度研究で開発した DPC ポートフォリオ Ver.2.1 の構成に従い、2,347 の

DPC14 桁支払い分類のうち、10 症例以上データを提出した施設が 5 施設以上ある 518 の分類について、8 ページ 1 セットの資料を作成した。最も症例数の多かった分類、040080xx99x00x をサンプルとして添付する。

2) 化学療法レジメンポートフォリオ

平成 16 年度研究で開発した化学療法レジメンポートフォリオ Ver.0.9 の構成を改良して DPC 6 桁分類ごとに 3 ページ 1 セットの形式として資料を作成した。最も症例数の多かった分類 040040 をサンプルとして添付する。

3) 病院診療ポートフォリオ

平成 17 年度研究で開発した病院診療ポートフォリオの構成に従い、DPC 6 桁分類ごと・医療機関ごとの資料を作成した。

2. 新たな統計資料の開発

1) 外来データを包含した化学療法実態の集計

化学療法レジメンポートフォリオにより確立された分析手法を外来 E/F ファイルに対して適用することにより外来化学療法における使用薬剤の集計を試みた。その結果、化学療法レジメン別の入院・外来比率についての知見を得ることができた。また、こうした入院・外来比率と治療症例数は医療機関ごとに大きく異なり、がん化学療法における医療機関の機能を評価する上では、外来の治療実績も考慮に入れる必要があることが示唆された。

2) DPC 支払い分類ごとの ICU/HCU 利用

DPC ポートフォリオの分析により、1 入院あたりの特定入院料のデータ分布にはいくつかのパターンがあることが示唆されていた。そこで、DPC 支払い分類ごとの ICU/HCU 利用率を医療機関別に集計し、その分布について検討した。その結果、入院診療計画に従い計画的に ICU/HCU 利用が発生しているパターンと、統計学的なリスクに従って ICU/HCU 利用が発生するパターンがあることが示唆された。

3) 医療機関別の診療パフォーマンス集計

DPC 対象病院の増加に伴い、医療機関の規模および診療の範囲には多大なバリエーションが見られるようになっている。病院診療ポ

ートフォリオでは、DPC 6 桁分類別に病院の特徴を可視化しているものの、医療機関全体としての特徴を把握するには必ずしも適した形式とはなっていなかった。そこで、医療機関内における疾患構成と手術・処置等の構成を組み合わせ、診療パフォーマンスについての集計を試みた。その結果、MDC による診療科別の集計と平行して、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病といういわゆる 4 疾病について MDC 横断的に病院の持つ機能を可視化する資料を試作することができた。

D. 考察

DPC ポートフォリオによる診療実態の可視化は、今回の改定における化学療法レジメン別 DPC 分岐の追加など制度の改善に直結する非常に強力な手法であると考えられる。今後は今年度試行した 3 種の新しい集計とあわせて更なる改良を図るとともに、各医療機関の機能評価係数を開発する上での包括的な評価の枠組みについて議論する必要があると考えられる。

E. 結論

本研究では、平成 18 年度 DPC 調査データによる DPC ポートフォリオスイートの更新を行うとともに、新たな統計資料の検討を行った。これらの資料により、診療の実態に関する理解を深めることができた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

平成 20 年 3 月現在未発表

2. 学会発表

平成 20 年 3 月現在未発表

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

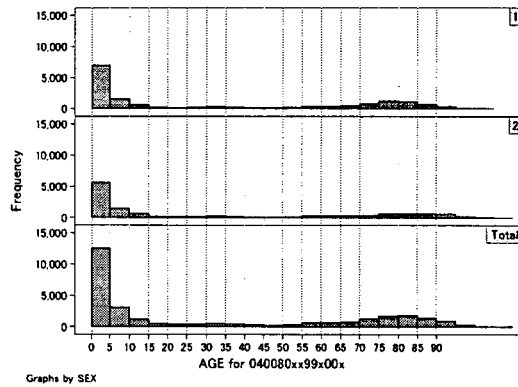
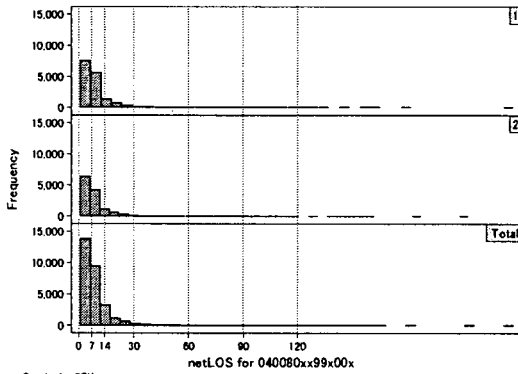
特になし

040080xx99x00x

DPC6	入院目的	年齢等	手術	処置1	処置2	副傷病	重症度等	包括	点数<I	入院期間I	点数<II	入院期間II	点数≥II	特定入院期間
040080	x	x	99	x	0	0	x	○	2,865	5	2,192	10	1,863	20

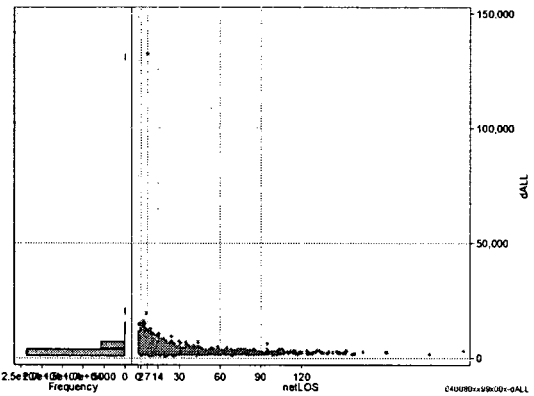
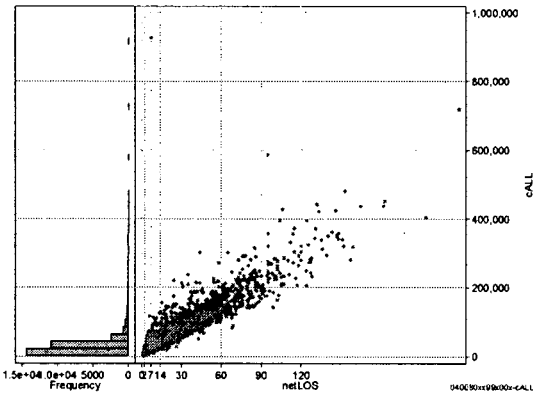
性別・年齢・機関別基礎集計

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max
netLOS	29,662	7.0	9.9	11.1	1	2	3	5	10	26	60	239



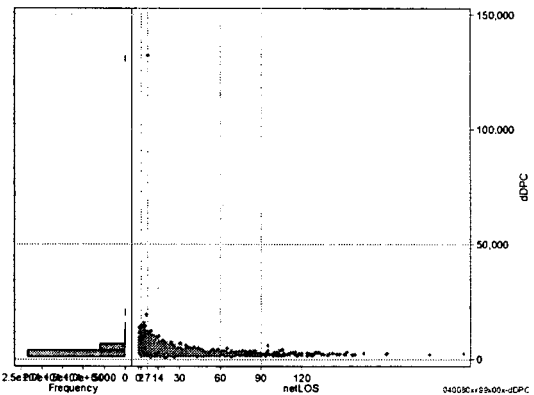
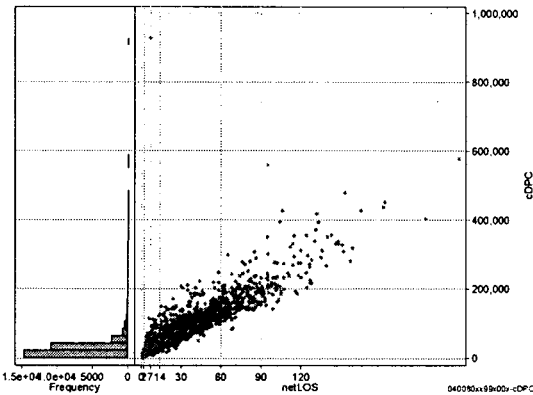
総点数の合計

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max
cAll	29,662	23,597.0	30,935.2	29,267.6	2,218	7,325	10,722	16,788	33,788	74,154	152,659	926,501
dAll	29,662	3,343.1	3,388.4	1,091.4	978	2,017	2,334	2,874	3,891	4,309	5,456	132,357



包括対象部分

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max
cDPC	29,662	23,320.0	30,124.9	27,643.7	2,218	7,124	10,380	16,607	33,212	71,020	146,413	926,501
dDPC	29,662	3,299.3	3,325.7	1,088.5	941	1,955	2,268	2,790	3,860	4,254	5,208	132,357



各項目のページへ:

- [1. 概況](#)
[2. 入院](#)
[3. 手術・処置](#)
[4. 処方・注射](#)
[5. 検査・画像](#)
[6. その他](#)
[7. 諸項目](#)
[8. 診療密度](#)

[一覧に戻る](#)

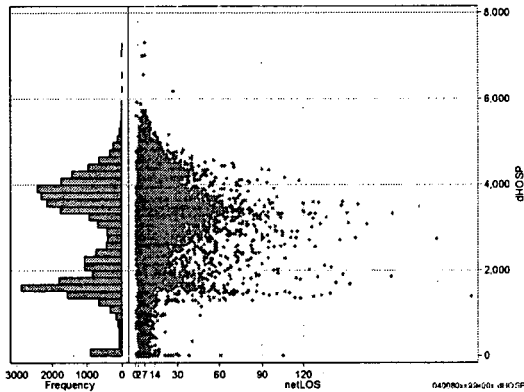
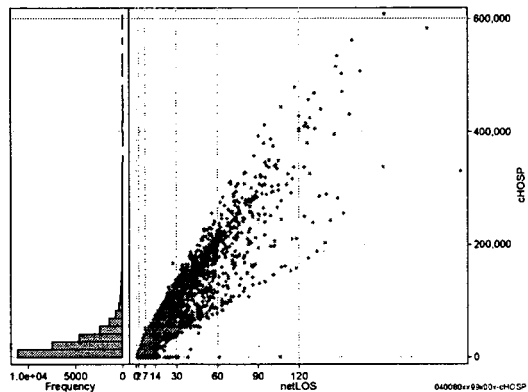
040080xx99x00x

DPC6	入院目的	年齢等	手術	処置1	処置2	副傷病	重症度等	包括	点数<I	入院期間I	点数<II	入院期間II	点数≥II	特定入院期間
040080	x	x	89	x	0	0	x	○	2,865	5	2,192	10	1,863	20

入院日数依存部分(入院管理料+加算+入院時食事療養等+調剤+調期)

cHOSP=cNYUIN+cSHOKUJI+cRxCHO+cRxCHOKI

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max
cHOSP	29,662	19,640.0	30,267.2	36,345.8	0	36	3,581	9,935	37,438	88,177	183,476	608,238
dHOSP	29,662	3,236.4	2,853.4	1,224.2	0	7	1,039	1,697	3,859	4,491	4,966	7,301
cNyuin	29,662	10,680.0	14,623.9	19,627.6	0	0	0	0	20,878	46,518	94,087	315,033
cShokuji	29,662	10,880.0	15,566.2	18,882.6	0	0	0	7,040	17,280	43,744	96,640	334,070
cRxCho	29,662	42.0	54.0	64.5	0	0	7	28	56	147	343	1,400
cRxChoKi	29,662	0.0	23.0	28.3	0	0	0	0	42	84	84	336
dNyuin	29,662	1,731.5	1,297.8	1,054.0	0	0	0	0	2,123	2,713	3,222	5,831
dShokuji	29,662	1,635.6	1,546.7	583.3	0	0	0	1,408	1,828	2,390	2,613	3,480
dRxCho	29,662	7.0	5.6	2.1	0	0	0	5	7	7	7	14
dRxChoKi	29,662	0.0	3.2	4.7	0	0	0	0	6	12	21	52



各項目のページへ:

- [1. 概況](#)
- [2. 入院](#)
- [3. 手術・処置](#)
- [4. 処方・注射](#)
- [5. 検査・画像](#)
- [6. その他](#)
- [7. 諸項目](#)
- [8. 診療密度](#)

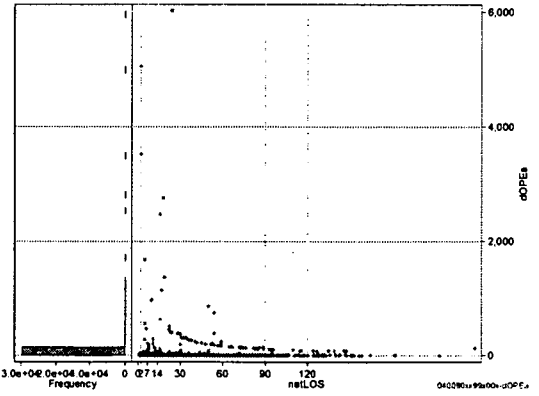
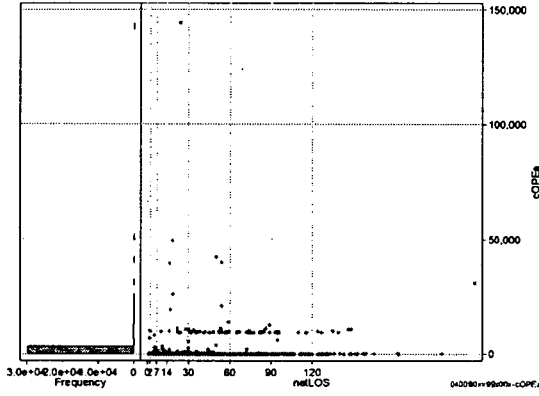
[一覧に戻る](#)

040080xx99x00x

DPC6	入院目的	年齢等	手術	処置1	処置2	副傷病	重症度等	包括	点数<I	入院期間I	点数<II	入院期間II	点数≥II	特定入院期間
040080	x	x	99	x	0	0	x	○	2,865	5	2,192	10	1,863	20

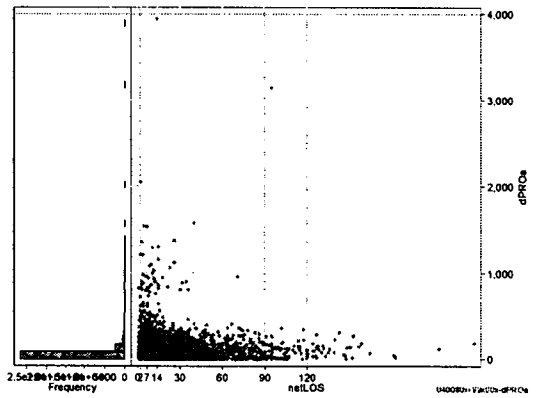
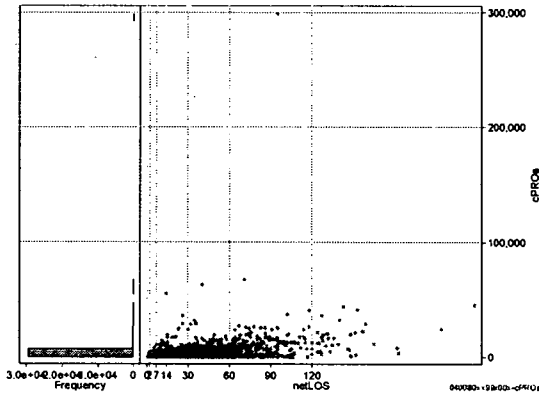
手術(手術(薬剤・材料以外)+手術(薬剤・材料))

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max
cOPEa	29,662	0.0	40.9	1,133.2	0	0	0	0	0	0	0	144,320
dOPEa	29,662	0.0	1.6	58.4	0	0	0	0	0	0	0	6,013
cOpe	29,662	0.0	34.4	741.6	0	0	0	0	0	0	0	45,280
cOpeM	29,662	0.0	6.5	641.5	0	0	0	0	0	0	0	106,520
dOpe	29,662	0.0	1.2	44.7	0	0	0	0	0	0	0	4,880
dOpeM	29,662	0.0	0.3	27.6	0	0	0	0	0	0	0	4,438



処置(処置(薬剤・材料以外)+処置(薬剤・材料))

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max
cPROa	29,662	0.0	480.4	2,492.2	0	0	0	0	219	2,285	7,529	298,610
dPROa	29,662	0.0	27.9	74.2	0	0	0	0	28	139	267	3,939
cPro	29,662	0.0	289.7	1,570.0	0	0	0	0	130	1,380	4,422	196,438
cProm	29,662	0.0	190.7	1,048.4	0	0	0	0	78	847	3,141	102,172
dPro	29,662	0.0	16.3	44.9	0	0	0	0	18	88	146	2,068
dProm	29,662	0.0	11.6	40.5	0	0	0	0	9	58	144	3,874



各項目のページへ:

- 1. 概況
- 2. 入院
- 3. 手術・処置
- 4. 処方・注射
- 5. 検査・画像
- 6. その他
- 7. 精項目
- 8. 診療密度

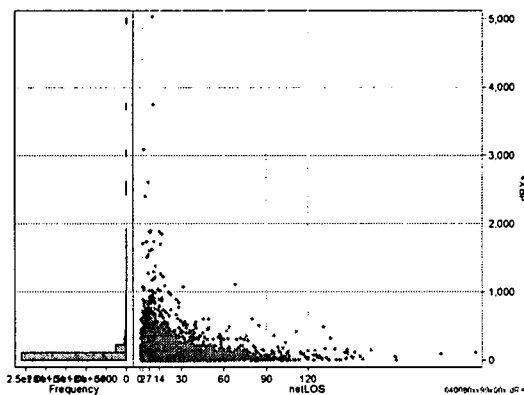
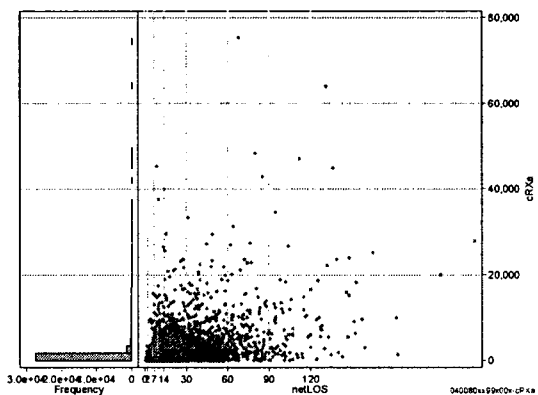
一覧に戻る

040080xx99x00x

DPC6	入院目的	年齢等	手術	処置1	処置2	副傷病	重症度等	包括	点数<I	入院期間I	点数<II	入院期間II	点数≥II	特定入院期間
040080	x	x	99	x	0	0	x	○	2,865	5	2,192	10	1,863	20

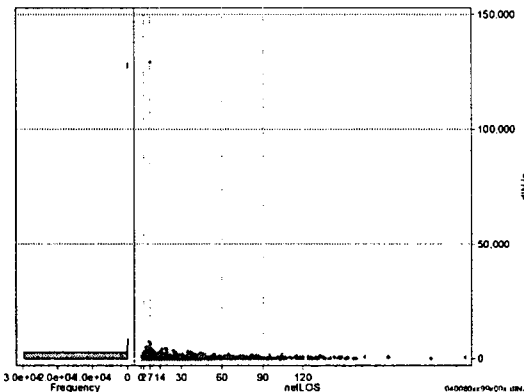
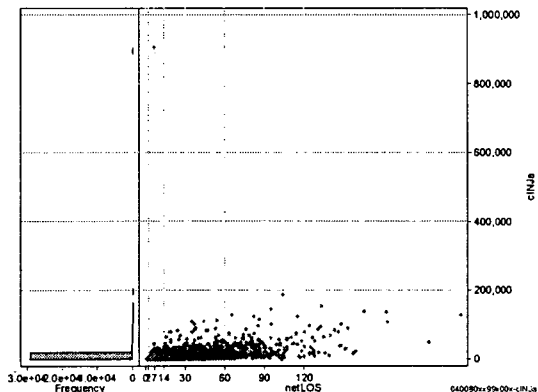
処方(内服+頓服+外用+麻薬)

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max	cRXa=cRxNAI+cRxTON+cRxGAI+cRxMADO	
													95%	99%
cRXa	29,662	279.0	673.1	1,753.7	0	0	11	126	577	2,454	7,106	75,298		
dRXa	29,662	41.3	62.1	96.8	0	0	2	19	75	178	397	5,030		
cRxNai	29,662	219.0	561.0	1,631.2	0	0	0	85	468	2,002	6,311	73,859		
cRxTon	29,662	0.0	7.3	61.9	0	0	0	0	0	32	120	5,907		
cRxGai	29,662	18.0	103.9	375.9	0	0	0	0	87	443	1,280	23,346		
cRxMado	29,662	0.0	0.9	4.5	0	0	0	0	0	5	18	186		
dRxNai	29,662	32.2	50.8	89.3	0	0	0	13	61	147	341	4,431		
dRxTon	29,662	0.0	0.6	5.3	0	0	0	0	0	3	10	656		
dRxGai	29,662	2.2	10.6	24.3	0	0	0	0	13	44	111	702		
dRxMado	29,662	0.0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	1	1	1		



注射(皮下筋肉内+静脈内+注射その他)

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max	cINJa=clnjHIKA+clnjJYO+clnjHOKA	
													95%	99%
cINJa	29,662	1,674.0	3,014.6	7,867.1	0	0	320	987	2,978	8,800	25,444	905,221		
dlnja	29,662	247.1	282.0	779.5	0	0	60	167	347	552	916	129,317		
clnjHika	29,662	0.0	29.4	584.1	0	0	0	0	0	0	220	45,540		
clnjJyo	29,662	0.0	469.2	2,059.3	0	0	0	0	182	2,488	6,135	141,306		
clnjHoka	29,662	1,383.0	2,516.0	7,004.4	0	0	0	718	2,459	7,602	23,467	792,168		
dlnjHika	29,662	0.0	2.2	50.6	0	0	0	0	0	0	13	4,743		
dlnjJyo	29,662	0.0	39.4	130.4	0	0	0	0	27	232	403	16,150		
dlnjHoka	29,662	213.1	240.5	688.2	0	0	0	123	313	517	832	113,167		



各項目のページへ:

- 1. 概況
- 2. 入院
- 3. 手術・処置
- 4. 処方・注射
- 5. 検査・画像
- 6. その他
- 7. 諸項目
- 8. 診療密度

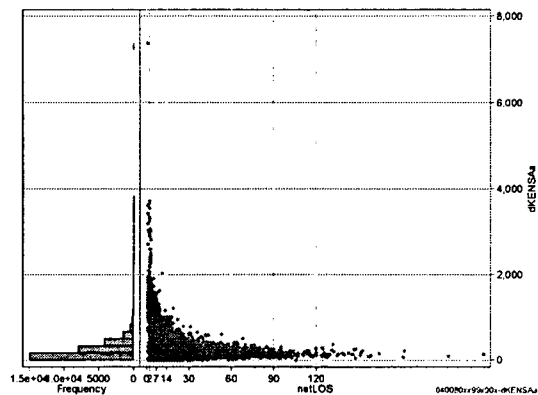
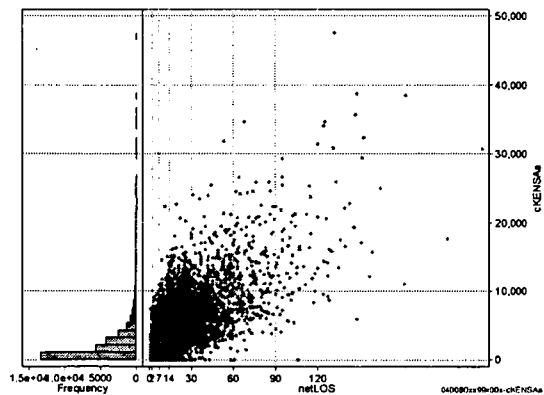
一覧に戻る

040080xx99x00x

DPC6	入院目的	年齢等	手術	処置1	処置2	副傷病	重症度等	包括	点数<I	入院期間I	点数<II	入院期間II	点数≥II	特定入院期間
040080	x	x	99	x	0	0	x	○	2,865	5	2,192	10	1,863	20

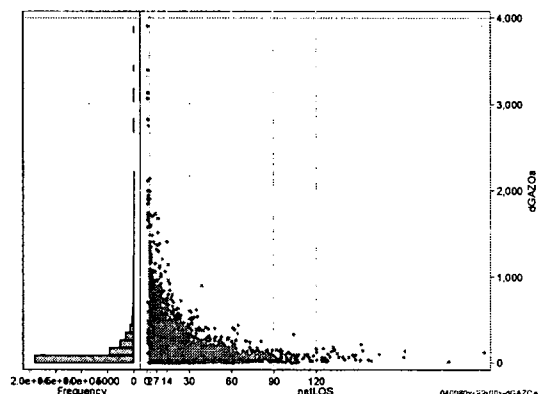
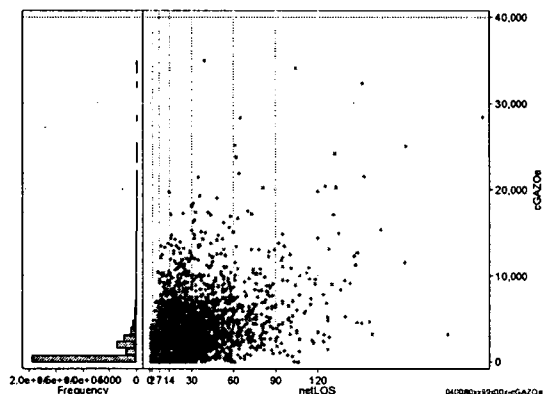
検査(検査(薬剤・材料以外)+検査(薬剤・材料))

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max
cKENSAA	29,662	1,372.0	2,007.7	2,719.8	0	0	0	0	2,884	6,859	12,337	47,555
dKENSAA	29,662	164.5	201.8	241.9	0	0	0	0	319	594	968	7,371
cKensa	29,662	1,372.0	1,998.9	2,694.8	0	0	0	0	2,890	6,790	12,185	47,555
cKensam	29,662	0.0	8.8	115.8	0	0	0	0	0	4	222	7,964
dKensa	29,662	164.3	201.2	240.4	0	0	0	0	319	592	963	7,331
dKensam	29,662	0.0	0.6	9.1	0	0	0	0	0	0	15	880



画像診断(画像診断(薬剤・材料以外)+画像診断(薬剤・材料))

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max
cGAZOa	29,662	350.0	1,086.6	1,791.8	0	0	0	0	1,885	4,073	8,011	35,001
dGAZOa	29,662	51.9	101.6	158.6	0	0	0	0	142	376	686	3,905
cGAZO	29,662	320.0	932.3	1,418.4	0	0	0	0	1,725	3,410	6,071	24,086
cGAZOm	29,662	0.0	154.3	521.1	0	0	0	0	128	576	2,156	32,196
dGAZO	29,662	46.7	88.8	134.0	0	0	0	0	126	324	557	3,245
dGAZOm	29,662	0.0	12.8	37.5	0	0	0	0	13	51	166	1,378



各項目のページへ:

- [1. 概況](#)
- [2. 入院](#)
- [3. 手術・処置](#)
- [4. 処方・注射](#)
- [5. 検査・画像](#)
- [6. その他](#)
- [7. 諸項目](#)
- [8. 診療密度](#)

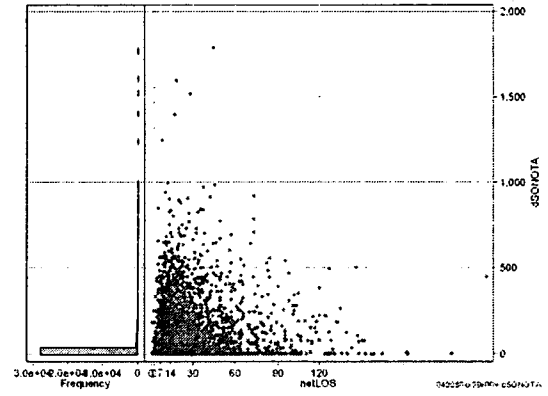
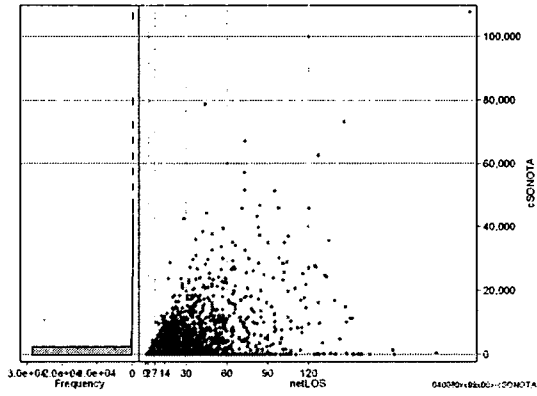
[一覧に戻る](#)

040080xx99x00x

DPC6	入院目的	年齢等	手術	処置1	処置2	副傷病	重症度等	包括	点数<I	入院期間I	点数<II	入院期間II	点数≥II	特定入院期間
040080	x	x	99	x	0	0	x	○	2,865	5	2,192	10	1,863	20

その他放治・リハビリ等

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max
cSonota	29,662	0.0	344.4	2,371.3	-150	0	0	0	0	1,080	9,500	107,670
dSonota	29,662	0.0	12.5	64.9	-5	0	0	0	0	62	355	1,788



各項目のページへ:

- [1. 概況](#)
- [2. 入院](#)
- [3. 手術・処置](#)
- [4. 処方・注射](#)
- [5. 検査・画像](#)
- [6. その他](#)
- [7. 諸項目](#)
- [8. 診療密度](#)

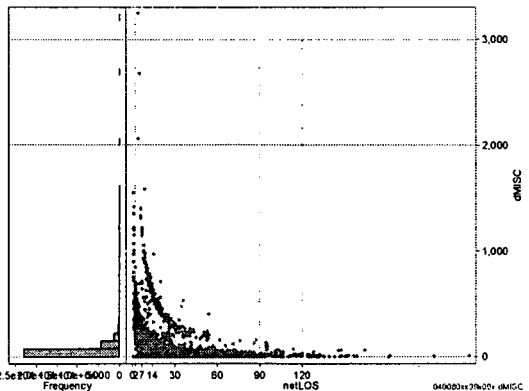
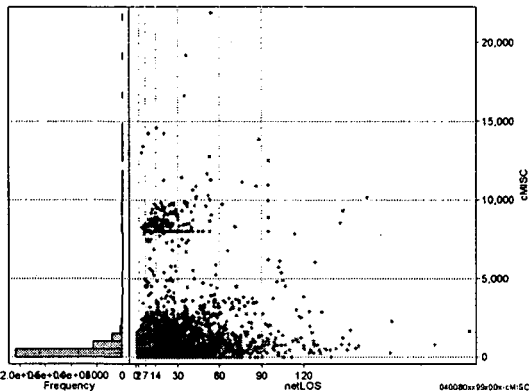
[二覧に戻る](#)

040080x99x00x

DPC6	入院目的	年齢等	手術	処置1	処置2	副傷病	重症度等	包括	点数<I	入院期間I	点数<II	入院期間II	点数≥II	特定入院期間
040080	x	x	99	x	0	0	x	○	2,865	5	2,192	10	1,863	20

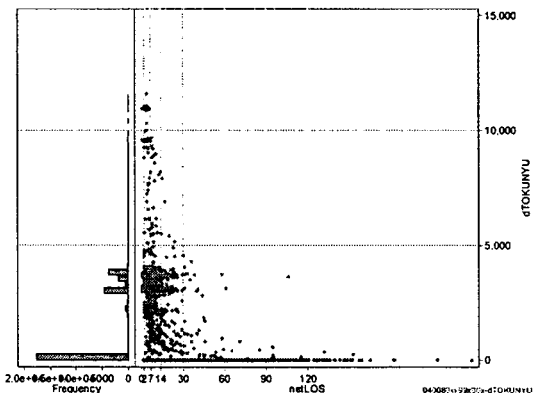
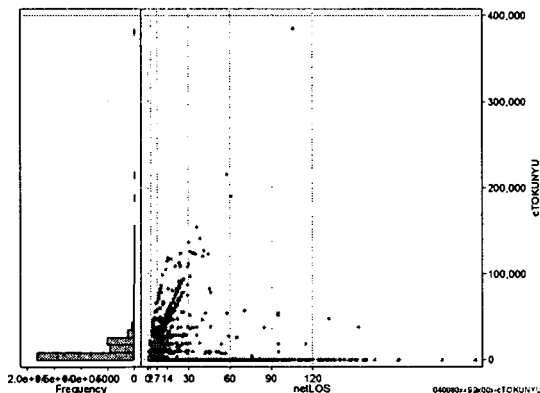
諸項目(初診料+指導管理料+在宅医療)

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max
cMISC	29,662	250.0	424.8	927.5	0	0	0	0	620	1,318	3,720	21,866
dMISC	29,662	10.5	48.7	94.1	0	0	0	0	69	181	439	3,244
cSHOSIN	29,662	0.0	106.8	192.9	0	0	0	0	273	520	753	1,037
cShido	29,662	0.0	238.5	406.8	0	0	0	0	350	1,000	1,740	9,000
cZaitak	29,662	0.0	79.5	759.9	0	0	0	0	0	0	2,400	20,946
dShosin	29,662	0.0	17.2	45.0	0	0	0	0	15	87	173	968
dShido	29,662	0.0	26.3	45.6	0	0	0	0	47	100	200	1,000
dZaitak	29,662	0.0	5.2	59.6	0	0	0	0	0	0	149	3,144



特定入院料

	N	Median	Mean	STD	Min	1%	5%	25%	75%	95%	99%	Max
cTokuNyu	29,662	0.0	8,161.6	12,085.0	0	0	0	0	15,600	28,986	44,400	384,870
dTokuNyu	29,662	0.0	1,343.5	1,693.6	0	0	0	0	3,106	3,733	3,918	11,585



各項目のページへ:

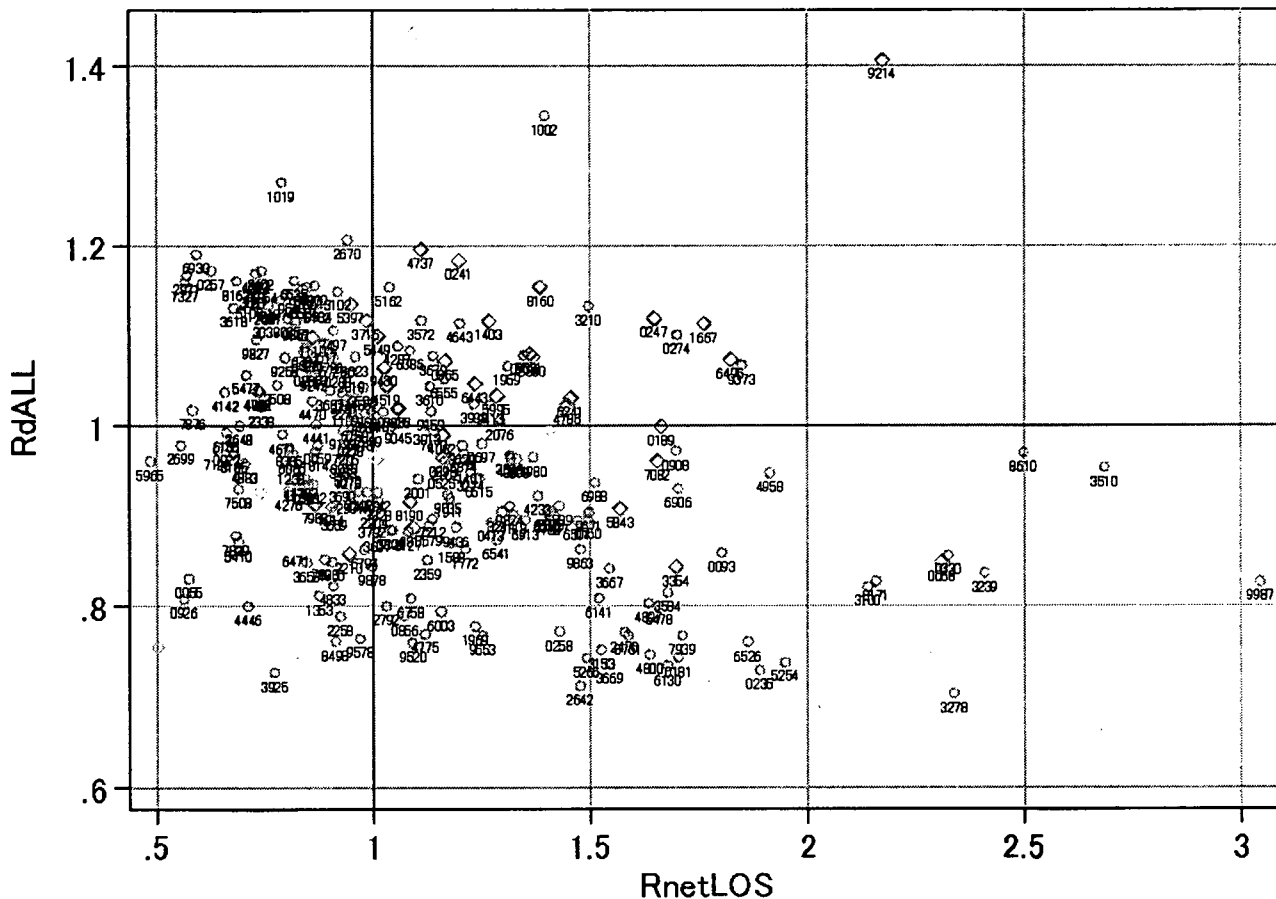
- [1. 概況](#)
- [2. 入院](#)
- [3. 手術・処置](#)
- [4. 処方・注射](#)
- [5. 検査・画像](#)
- [6. その他](#)
- [7. 諸項目](#)
- [8. 診療密度](#)

[一覧に戻る](#)

040080xx99x00x

DPC6	入院目的	年齢等	手術	処置1	処置2	副傷病	重症度等	包括	点数<I	入院期間I	点数<II	入院期間II	点数≥II	特定入院期間
040080	x	x	99	x	0	0	x	○	2,865	5	2,192	10	1,863	20

施設別の診療密度	metLOS/rcALL													
症例数合計	netLOSの平均							dALLの平均						
29,662	9.9							3,388						



040080xx99x00x-density

各項目のページへ:

- [1. 概況](#)
- [2. 入院](#)
- [3. 手術・処置](#)
- [4. 処方・注射](#)
- [5. 検査・画像](#)
- [6. その他](#)
- [7. 諸項目](#)
- [8. 診療密度](#)

[一覧に戻る](#)